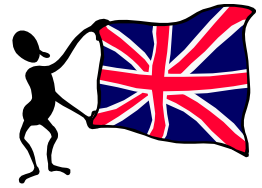


### イギリス音楽をたずねて

いよいよオリンピック開幕。開催国イギリスにちなんで、この機会に音楽でもイギリスを楽しんでみませんか？



#### 【背景】

日本と同じく島国であるイギリス。日本と異なる点は、ヨーロッパ大陸の影響をさまざまに受けながら発展していったこと。特にイングランドにおいては、1066年のノルマン・コンクエスト（ノルマンディー公ギョーム2世によるイングランド征服）によって文化的、政治的に大きく変化した。英仏百年戦争（1337-1453）、英国国教会の成立（16世紀半ば）、王政復古（1660）などの変革を経て、音楽も影響を受けていった。

#### 【中世～ルネサンス】

イギリス人作曲家としてはじめに功績が称えられるのは、**ジョン・ダンスタブル**。百年戦争の際にイギリス側の摂政に随行してフランスに渡り、大陸と母国の文化の橋渡しとなった。16世紀に入ると、**ジョン・タヴァナー**、**トマス・タリス**、**ジョン・ダウランド**、**オーランド・ギボンズ**、**ウィリアム・バード**といった才能あふれる作曲家たちが現れる。

◆タリスの作曲した40声部から成るモテットは圧巻。ぜひCDと楽譜を揃えて聴いて。

「タリス：40声のモテトゥス」タリス・スコラーズ 請求記号：1S3.08

「Tudor church music vol. 6」 請求記号：A-T81-6

#### 【バロック～古典】

イギリス・バロック音楽最大の作曲家といえば**ヘンリー・パーセル**。フランスやイタリアの新しい音楽を柔軟に作品に取り入れ、自国の音楽様式と自由に融合させた。また、この頃イギリスには各国から作曲家たちが集まっている。**ヘンデル**や**ハイドン**がイギリスで活躍したことは有名。

◆パーセル作曲のオペラ「ディドーとエネアス」（ダイドーとイニアス）は上演時間1時間ほどのコンパクトな作品。終盤で歌われるアリア「私が土の下に横たわるとき」は特に美しい。

「ディドーとエネアス」ピノック(指揮)、オッター(Ms)他 請求記号：1S4.71

#### 【ロマン派～現代】

**エドワード・エルガー**、**フレデリック・ディーリアス**、**レイフ・ヴォーン＝ウィリアムズ**、**グスターヴ・ホルスト**、**パーシー・グレインジャー**、**マイケル・ティペット**、**ベンジャミン・ブリテン**など、個性豊かな作曲家たちが活躍する。特にエルガー作曲の「威風堂々第1番」、ホルスト作曲の「惑星」は今日よく知られた音楽となっている。

◆さまざまな作曲家による歌曲は、イギリス人テノールの演奏でどうぞ。

「英国歌集」ポストリッジ(Ten)、ドレイク(Pf) 請求記号：2Q4.10

◆吹奏楽のために書かれた、歴史的にも重要な作品をたっぷり。

「ホルスト&ヴォーン＝ウィリアムズ 吹奏楽作品集」レイニシュ(指揮)他 請求記号：3C3.62

◆シェイクスピア原作のブリテンのオペラは、グランドボーン音楽祭での映像を。

「真夏の夜の夢」ハイティンク(指揮)、コトルバス(Sop)他 請求記号：ALD881-882

最近受け入れた新刊・新譜から、おすすめの資料をご紹介します♪



## 【音源資料】

『ブ람ス：雨の歌～チェロのためのソナタ名曲集』ヴァルガ(Vc)、ボーグナー(Pf)

請求記号：4G6.23

タマーシュ・ヴァルガといえば、ウィーン・フィルの首席奏者として、また毎夏に行われる草津国際音楽祭への度々の参加によって、日本でももうお馴染み。今回のアルバムは「チェロのためのソナタ集」とはいうものの、収録された3曲は実はどれもチェロのために書かれた作品ではない。例えば、表題曲はヴァイオリン・ソナタ第1番をパウル・クレンゲルがチェロのために編曲したもの。しかし彼の奏でる深みのあるあたたかい響きを聴くと、チェロのために書かれたかのように聞こえてしまう。その他シューベルト、ベートーヴェンのソナタを収録。

『ラフマニノフ：交響曲第2番他』パッパーノ(指揮)、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団

請求記号：6A1.29

アントニオ・パッパーノが指揮する音楽からは、いつも「歌」を感じる。常に旋律が歌うように、しかし確かな方向性を持って進んでいく。その彼がラフマニノフ特有の感傷的な旋律を指揮すると、どうだろう。音楽はすべてが解放されて自由でありながら、見つめる先には光が輝き、すべての音は吸い込まれるかのようにその方向に絶えず進み続けていく。特に表題曲の第3楽章は本当に美しく、心が揺さぶられる。オーケストラも歌心と情熱を持った演奏で応えている。この他、リャードフ作曲の「魔法にかけられた湖」を収録。

## 【映像資料】

『不思議の国のアリス』クリストファー・ウィールドン振付、英国ロイヤルバレエ団

請求記号：DVD1717

2011年に初演されたばかりの新作全幕バレエが、早くも映像化された。ルイス・キャロルの児童文学はディズニーのアニメーションでもよく知られているが、非現実的なエピソードの数々がどうやって劇場で再現されるのか…？そんな興味本位で見始めても、あるいはバレエをよく見ている観衆にとっても、こんなに楽しめるバレエはなかなかないのでは。作品全体にイギリス人らしいユーモアがあふれ、思わず笑ってしまう。アリスと一緒に不思議の国を駆け抜けていくような感覚が楽しい。帽子屋の素晴らしいタップダンスや、ハートの女王の強烈なキャラクターにも注目。作曲はジョビー・タルボット。

## 【図書】

『カフカ 夜の時間 メモ・ランダム』高橋悠治 みすず書房 請求記号：O.9-T139-11

『カフカノート』高橋悠治 みすず書房 請求記号：O.9-T139-11

作曲家・ピアニストの高橋悠治。本書は1986年の闘病中に彼が書いた文章や、闘病直前まで取り組んでいた作曲作品についての制作メモなどをまとめたもの。『カフカ 夜の時間 メモ・ランダム』では、彼自身が書いた文章をカフカの言葉を交えながら綴っている。高橋の言葉とカフカの言葉が次第に溶け合っていくのが興味深く、読み進めるうちにその世界にどんどん惹きこまれてしまう。『カフカノート』では、彼の作曲の過程を窺い知ることができる。

2012年7月発行 東京文化会館音楽資料室